

(3) そば

ア 生育の特徴

(7) 全体の概況(作業の進捗や生育状況等)

播種は7月下旬から8月上旬に行われ、気温が高くほ場の砕土率が高くなり出芽は良好であった。その後の生育は、高温・多照により順調であった。

開花期は8月下旬から9月上旬であったが、高温の影響により受精は不良、殻のみで実が入っていない状態がみられた。9月の台風により倒伏した。

収穫作業は9月下旬から10月中旬に行われた。高温、乾燥、倒伏、鳥獣被害による減収した事例が多い。収量は30～40kg/a程度であった。

(7) 現地調査事例

別紙資料に、会津農林事務所喜多方農業普及所、南会津農林事務所農業振興普及部における現地調査事例を記した。両事例から、令和5年度の夏季高温・少雨(乾燥)がそばの生育に大きく影響したことが確認された。

別紙資料 現地調査事例

会津農林事務所喜多方農業普及所管内の事例	
事例 1	<p>そば(秋そば)は、播種時期～生育初中期(7月下旬～8月下旬)に、高温と極端な少雨に見舞われたことで、土壌が過乾燥となり、著しい出芽不良と生育不良となったほ場が一部でみられた(写真)。</p>  <p>写真 著しい出芽不良と生育不良(令和5年11月24日)</p>

南会津農林事務所農業振興普及部管内（下郷町落合地区）の事例		
事例 2	状況	
	<p>令和5年のそば作柄判定は（下郷町落合地区）は、子実重、千粒重ともに平年を下回った（表1）。そばにおいて高温による影響が発生する明確な温度は明らかになっていないが、本調査では、基準となる気温を日最低気温で17.5℃超、日平均気温で21℃以上と設定し、8月20日～9月10日（開花期間相当）の高温の影響を評価した（表2）。</p> <p>1 平成25年～令和4年は、日最低気温が17.5℃を超える日数は平均10日であった。一方、令和5年は19日であった。</p> <p>2 平成25年～令和4年は、日平均気温が21℃以上の日数は平均11日であった。一方、令和5年は21日であった。</p>	
表1 生育及び収量		
	平年 (5か年平均： 平成30年～令和4年)	令和5年
播種期（月日）	7月23日	7月23日
開花期（月日）	8月20日	8月17日
成熟期（月日）	10月3日	10月1日
主茎長（cm）	120.7	124.3
主茎節数（節）	12.1	12.1
分子数（本）	2.5	1.4
全重（kg/a）	40.3	53.1
子実重（kg/a）	8.7	7.0
千粒重（g）	28.5	27.9
表2 日最低気温が17.5℃を超えた日数及び日平均気温が21℃以上の日数		
	平年 (10か年平均：平成25～ 令和4年)	令和5年
日最低気温が 17.5℃を超えた日数	10	19
日平均気温が 21℃以上の日数	11	21

イ 今後の技術対策

特にそばの高温・少雨対策技術は無く、栽培における基本技術を励行する。特にそばは湿害に弱い作物であるので、水田作含めて排水対策を徹底する。

また、収量・品質の維持のため、計画的に種子更新する、適切な施肥を行うと共に、土壌分析により pH 矯正、養分バランスの矯正、堆肥施用による土作りを行う。地域の水稻、大豆との作業時期を調整し適期収穫する。